

科学研究費助成事業 平成31年度予算案及び平成30年度第2次補正予算案の説明

H31予算案：2,372億円【対前年度 86億円増】

H30第2次補正予算案： 50億円

科研費は全ての研究活動の基盤となる「学術研究」を幅広く支援することにより、科学の発展の種をまき、芽を育てる上で大きな役割を果たしています。平成31年度予算案及び平成30年度第2次補正予算案においては、若手研究者への支援を重点的に強化するとともに国際共同研究を加速し、科研費改革を着実に推進することとしています。詳細については、以下のとおりです。

◆若手研究者への支援の強化

「科研費若手支援プラン」の実行により、若手研究者のキャリア形成に応じた支援を強化します。

- ・「若手研究」及び「研究活動スタート支援」の抜本的な拡充や、「研究活動スタート支援」の基金化を実現
- ・国際競争下で研究の高度化に欠かせない、より規模が大きい「基盤研究（B）」の拡充
- ・学術研究の多様性と裾野の広がりを支える「基盤研究（C）」の拡充

◆国際共同研究の推進

「国際共同研究加速基金」を拡充し国際共同研究を推進します。

- ・若手研究者の参画を必須として国際共同研究を加速する「国際共同研究強化（B）」の拡充
- ・海外の研究機関に所属する優秀な若手研究者等の帰国後の研究を支援する「帰国発展研究」の拡充
- ・科研費に海外渡航時の研究費の中断制度を導入（制度改善事項）

新学術領域研究（研究領域提案型）の中間・事後評価について

平成30年12月3日に開催した科学研究費補助金審査委員会において、新学術領域研究（研究領域提案型）21領域の中間評価、20領域の事後評価について審議した結果、以下のとおり決定されました。

詳細な内容については、下記の文部科学省科研費ホームページをご覧ください。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/1412384.htm

●新学術領域研究（研究領域提案型） 中間評価（対象21研究領域）

A+	研究領域の設定目的に照らして、期待以上の進展が認められる	1
A	研究領域の設定目的に照らして、期待どおりの進展が認められる	15
A-	研究領域の設定目的に照らして、概ね期待どおりの進展が認められるが、一部に遅れが認められる	4
B	研究領域の設定目的に照らして研究が遅れており、今後一層の努力が必要である	1
C	研究領域の設定目的に照らして、研究成果が見込まれないため、研究費の減額又は助成の停止が適当である	該当なし

●新学術領域研究（研究領域提案型） 事後評価（対象20研究領域）

A+	研究領域の設定目的に照らして、期待以上の成果があった	6
A	研究領域の設定目的に照らして、期待どおりの成果があった	12
A-	研究領域の設定目的に照らして、概ね期待どおりの成果があったが、一部に遅れが認められた	2
B	研究領域の設定目的に照らして、十分ではなかったが一応の成果があった	該当なし
C	十分な成果があったとは言い難い	該当なし

新学術領域研究（研究領域提案型）『学術研究支援基盤形成』の中間評価について

平成31年2月1日に開催した科学研究費補助金審査部会において、新学術領域研究（研究領域提案型）『学術研究支援基盤形成』7プラットフォームの中間評価について審議した結果、以下のとおり決定されました。

詳細な内容については、下記の文部科学省科研費ホームページをご覧ください。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/1367903.htm

●新学術領域研究（研究領域提案型）『学術研究支援基盤形成』

プラットフォーム（旧制度を発展強化するもの）・連携推進協議会 中間評価（対象5プラットフォーム）

A	プラットフォーム（連携推進協議会）の目的に照らして、期待どおりの進展が認められるため、事業計画のとおりに継続を認める	5
A-	プラットフォーム（連携推進協議会）の目的に照らして、概ね期待どおりの進展が認められるが、目的達成に向けて事業計画を一部改善の上、継続を認める	該当なし
B	プラットフォーム（連携推進協議会）の目的に照らして、研究支援活動（取組）が遅れており、事業計画を大幅に改善の上、継続の可否を判断する	該当なし
C	プラットフォーム（連携推進協議会）の目的に照らして、研究支援活動（取組）の進展が見込まれないため、継続を認めない	該当なし

●新学術領域研究（研究領域提案型）『学術研究支援基盤形成』

プラットフォーム（試行的実施） 中間評価（対象2プラットフォーム）

A	プラットフォームの目的に照らして、期待どおりの成果が認められるため、事業計画のとおりに継続を認める	1
A-	プラットフォームの目的に照らして、概ね期待どおりの成果が認められるが、目的達成に向けて事業計画を一部改善の上、継続を認める	1
B	プラットフォームの目的に照らして、一応の成果は認められるが、事業計画を大幅に改善の上、継続の可否を判断する	該当なし
C	プラットフォームの目的に照らして、十分な成果があったとはいえないため、継続を認めない	該当なし

「我が国における学術研究課題の最前線（平成30年度）」を公開

日本学術振興会及び文部科学省において審査を行った研究種目のうち、研究費の規模が大きく評価が高い研究を支援するもので、一人又は比較的少数の研究者により研究が実施される「特別推進研究」や「基盤研究（S）」、複数の研究者グループにより研究が実施される「新学術領域研究（研究領域提案型）」の新規採択研究課題の研究概要等を取りまとめた資料を公開しています。

以下より、ダウンロード可能となっておりますので、ご活用下さい。

http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/30_front/



小・中・高校生のための プログラム



KAKENHI

「ひらめき☆ときめきサイエンス」は、科学研究費助成事業により行われている、研究者個人の独創的・先駆的な学術研究の成果を、全国各地の大学、高等専門学校その他の研究機関において、小学5・6年生、中学生、高校生を対象として、研究者自身が分かりやすく情報発信するプログラムです。

平成29年度には、児童生徒の他引率の保護者・学校教員等を含め約9,400名の参加がありました。

○平成29年度に実施されたプログラムの事例紹介

『薬を創る薬剤師』

大越 絵実加（青森大学・薬学部・准教授）

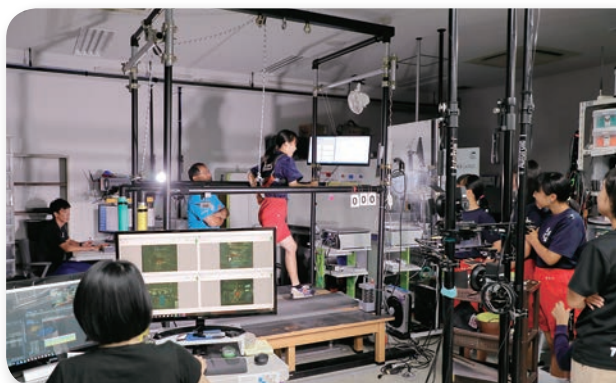
薬をつくる体験をしたり、薬剤師の方のお話を聞いたりすることで、薬剤師として活躍する未来の自分を想像しました。



『走り科学する。自分の筋骨格の特徴を調べ、短・長距離走能力アップ！』

石川 昌紀（大阪体育大学・体育学部、大学院スポーツ科学研究科・教授）

トップアスリートのからだや走りの特徴と、自分の特徴との違いをデータで比較し、理想の走り方を目標としたトレーニングを体験しました。



『神経回路を、作って、描いて、学ぼう！』

中川 直（国立研究開発法人理化学研究所・脳科学総合研究センター 局所神経回路研究チーム・研究員）

神経細胞の構造について学んだあと、電子部品を用いて神経細胞ユニットを作ること、神経回路の仕組みを理解しました。



平成31年度の実施プログラムは、6月頃の公表を予定しています。

「ひらめき☆ときめきサイエンス」の詳細は、日本学術振興会「ひらめき☆ときめきサイエンス」ホームページ (<https://www.jsps.go.jp/hirameki/index.html>) をご覧ください。

Q ひら☆とき

検索